

明治用水頭首工復旧対策検討委員会（第3回）
議事に関する委員長メモ

漏水発生メカニズムと原因の分析、本復旧に係る対策工法の検討のため、

- 左岸側の堰軸の空洞貫通位置と概ねの範囲、下流エプロン下の空洞範囲と大きさが確認できた
- 空洞が確認されたP1堰柱の補強を早急に行うとともに、その安定性の検討は、転倒・滑動・断面破壊等の限界状態について解析を行うべき
- 下流エプロンの安定性について、水位差がある状態を考慮すべき
- ロードマップは、一年間だけでなく完了までの道筋を示し、調査・検討結果、対策等の進捗を踏まえ、随時更新し、本復旧に活用
- 犯人探しではなく再発防止に繋げるため、漏水発生メカニズムは、これまで発生要因となった可能性のある事項を、予断を持たずに検討し、次回に再度、審議が必要